

## 一般国道292号及び(仮)奥志賀公園線道路改築事業に係る事後調査報告書への意見に対する事業者の見解

No.	意見	事業者の見解
1	<p>・供用後20年間のモニタリングを実施したことは、事後調査を行う上での貴重なモデルになると思われます。本調査で得られた知見を、他事業にも活かしてほしいと思います。今後もこのような長期間の事後調査のモデル地区が設定されることを期待します。</p>	<p>本事業における調査結果から得られた知見については共有を図り、今後の事業に活用します。</p>
2	<p>・法面緑化回復調査では、表土流出したところが㊸発哺（法面）で見受けられるので、対策が必要です。その際、現在進行している異常な降雨量（100mm/h以上）を考慮し、土砂災害防止を第一とした修景緑化対策が必要であると思われます。又このことは他の地点でも言えます。</p>	<p>対策が必要な箇所につきましては、対策を検討してまいります。</p>
3	<p>・緑化木移植状況調査では、移植木の生存率が1年後に約7割、20年後に約2割強に減少しており、移植の初期段階での対策が重要であり、今後、事後調査における保全措置や期間、終了時期等の検討に活かすことが大切です。</p>	<p>移植木の生存率は2割強となりましたが、埋土種子由来の実生個体が多く確認されており、表土回復緑化の効果は認められました。一方で移植段階における課題も整理されたことから、今後の事業実施にあたり参考としてまいります。</p>
4	<p>・地点の㊸坊平橋下においてハリエンジュが確認されるなど外来種対策が必要とされている。本ルートは植生の垂直分布が眺望され、生物多様性や景観上優れた地域です。ハリエンジュがミズナラ、シラカバ林等に混成しないように、適切な配慮が必要とされます。</p>	<p>調査により樹林化やササ草原化に伴い地表が日陰になったため、陽地を好む外来種は衰退したことが確認されています。また高木性の種が周辺環境からの種子により繁殖し、連続した植生景観となっていることが確認されています。今回、坊平橋下で確認されたハリエンジュにつきましては、ハリエンジュ群落へ遍移が確認された場合には対応方針を検討してまいります。</p>
5	<p>・最後のモニタリングにふさわしく、将来に繋がる総括をしてください</p>	<p>今回の調査報告書につきましては、供用後20年目の調査結果を取りまとめております。調査から得られた知見に基づき、今後の緑化植栽における留意事項は報告書143ページにまとめられておりますが、これまで行ってきた事後調査全体の総括に関しましては、今後検討します。</p>
6	<p>・長野県の技術としてステップアップしてください</p>	<p>1番のとおりです。</p>